広報おおいしだ 2026／11 No.845

別冊 おおいしだものがたり

～資料館資料編～ ■「歌人と冬と大石田」より

現在資料館では『歌人と冬と大石田』と題し、齋藤茂吉を中心にアララギに連なる歌人の作品を展示しています。今回はこの中から、歌人・齋藤茂吉が描いた絵画をご紹介します。

以前この小欄で茂吉の絵について取り上げた際は、茂吉周辺には才気あふれる画家たちがいたものの、それらの画家の直接的な影響を受けない独自の画趣があることに触れました。日本画家である加藤淘綾の画材を用いていたことから、作品技法や画材からいえば日本画といえます。しかしその画風は、淘綾はもちろん伝統的な日本画のどの流派にも当てはまらないものです。かといって、大石田時代の茂吉が何度もその制作風景を目にした金山平三の洋画とも異なるものです。茂吉の絵画を既存のジャンルに当てはめるのならば、おそらく「ボタニカルアート」が近いのではないかと思われます。

ボタニカルアートは、現在では植物を高精細に描いた美術作品の一つの分野として捉えられています。

しかし元来は写真の無い時代に描かれた図鑑の挿絵です。そのため鑑賞を目的とする芸術性よりも、植物の特徴を正確に記録する科学的な視点が求められていました。

展示中の齋藤茂吉作の絵画を見てみると、『漆もみぢ図』『さおとめかづら図』『木天蓼（またたび）図』そして『紅牡丹図』など、植物を描いたものばかりです。ボタニカルアートでは植物の形や構造、細部以外の余計な情報を削ぎ落とす目的で、背景を描かないことが原則とされます。茂吉の作品も、やはり対象以外は素地のまま、手を加えられることはありません。花弁や葉の輪郭は細かな部分や重なり具合まで執拗に描き込まれています。上手に描こう、あるいは絵画的に見栄えを整えようという意識は薄く、そこには対象のあるがままの状態を細部まで観察し、その観察結果を正確に写し取ろうという博物学的な態度が見られます。



歌人であると同時に医師でもあった齋藤茂吉にとって、このような視点で対象を捉えることはごく自然な動作であったのかもしれません。注目すべきは、このような視点が歌人としての姿勢にも表れているのではないかという点です。茂吉の所属するアララギは写生主義を旨とする一派ですが、茂吉の写生が自然科学的なアプローチで冷徹に行われたと考えられます。もちろんそれだけではなく、そこに茂吉独自の文学性を加味して生まれたのが数々の秀歌であったという見方もできるのではないでしょうか。このような視点で改めて「虹の断片」や「逆白波」といった茂吉の短歌を捉えなおすと、それまでとは異なる印象を得られるかもしれません。（大石田町立歴史民俗資料館　大谷）

◇編集・発行　大石田町総務課
〒999-4112　山形県北村山郡大石田町緑町1番地
☎ 0237-35-2111
FAX 0237-35-2118
◇印刷／大場印刷㈱
［広報おおいしだ］の文字書体は誰にでも読みやすいユニバーサル書体を使用しています。

大石田町公式アカウント開設
LINEはじめました
防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。
友だち登録をお願いします！
登録方法
右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。
大石田町公式LINE

防災放送の内容を電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時（夕方６時のメロディ等）放送を含め、直近の放送から８時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ　℡35-2111（内線218）

町の人口　令和８年11月１日現在

世帯数	2,162戸	（－10）
総人口	5,583人	（－30）
男	2,786人	（－13）
女	2,797人	（－17）

（10月中の異動）

出生	０人	転入	12人
死亡	22人	転出	20人

※この人数は外国人も含めたものです。